

ワールド ウッド トренд

No. 7, 8 AUG 2014



1. 台湾の今年1～5月の新設住宅着工大幅増

台湾内政部が発表した今年1～5月の新設住宅着工戸数は10,478件にのぼり、前年同期の6,741件に比べ、55.4%の増加となった。そのうち、住宅類が7,854件と最も多く（約75%）、次いで農家住宅等の建築が697件（約6.7%）、工業・倉庫等の建築が649件（約6.2%）となっている。

建築着工床面積は1,423万861㎡にのぼり、前年同期の772万9,790㎡より84.2%増加した。そのうち、住宅類が最大の873万3,896㎡（約61.3%）を占め、次いで工業・倉庫建築が180万7,337㎡（約12.7%）、商業建築が122万9,894㎡（約8.6%）となっている。

また、今年1～5月の竣工物件に対する「検査済証」の交付件数は計10,998件、延べ床面積は1,123万4,811㎡で、前年同期と比べて交付件数が168件（約-1.5%）の減少、床面積が84万4,114㎡（約8.1%）の増加となった。なお、今年1～5月の「建設許可証」の申請件数は13,427件で、前年同期と比べて23件（約0.17%）と微増している。延べ床面積は1,628万3,621㎡で、同8万5,085㎡（約0.53%）増加している。

総じて言えば、今年1～5月の住宅着工戸数及び面積はいずれも大幅な伸びを示しており、建築用コンクリート型板及び角材需要の牽引役として大きく寄与している。それに伴い、日本からのスギ原木の輸入量も堅調な増加を続けている。建物竣工後の「検査済証」の交付件数は若干減少したものの、延べ床面積は約8%増加しており、これは合板等の内装用木材製品の需要の増加（今年1～6月の合板の輸入量は前年同期比約7.32%増）に寄与していると考えられる。また、「建設許可証」の申請件数が前年同期とほぼ同じであったことは、住宅市場の景気動向は、今後ほぼ横ばいで推移するであろうという住宅建築業者の見方を反映しているものと考えられる。

2. 台湾 島内産木材の利用推進へ

台湾林務局は、国産材の有効利用を促進するため、島内の北部、中部、南部に三つの林業販売協同組合を設立し、運営指導にあたっているとともに、財団法人工業技術研究院及び社団法人中華木質構造建築協会への委託を通じて、木竹製品原産地認定制度の企画・立案及び実行の推進（現在すでに台湾大学実験林場、徳豊、昆儀及び正昌の4機関がその認定を取得）、平野部短期造林に取り組んでいる。しかし、林業主管機関の国産材利用推進に関する取り組みはまだ初歩的な段階にあり、業者にとって最大の関心事である、国産材利用推進を消費者にアプローチするための具体的な施策はまだ決まっていない。

なお、冒頭に述べた三つの林業販売協同組合の概要は次のとおりである。

(1) 永泰林業販売協同組合

2012年12月に設立され、管轄している林地は新竹県内にあり、組合管内の森林面積は約230haである。主な商用樹種として、スギが最も多く（電信柱やコンクリート型板用材として利用）、次いで「福杉」と呼ばれるコウヨウザン（内装材及びコンクリート型板用材として利用）、タイワンスギ（内装材や家具材として利用）の順となっている。

(2) 永隆林業販売協同組合

2013年4月に設立され、管轄している林地は南投県内、台中市内にあり、組合管内の森林面積は約6,000ha、そのうち約5,000haの林地は高海拔地や交通不便地にあるため、伐採コストが高く、商用に運用されるのは約600haとなっている。商用に供される樹種はコウヨウザン（内装材として利用）が最も多く、次いでスギ（集成材やコンクリート型板用材として利用）である。

(3) 永在林業生産協同組合

2013年12月に設立され、管轄している林地は屏東県内にあり、組合管内の森林面積は約1,500haである。主な商用樹種はタイワンアカシアであり、家具材や床材からキノコ栽培用の原木まで、幅広い用途で利用されている。

以上の組合管内の林地は、個人所有林もしくは政府から借り入れをしている造林地である。

3. 今年上半期における台湾の木材製品の供給概況

今年上半期における台湾の主要木材製品の輸入実績は、表1に示すように、各品目の伸び幅が異なるものの、好調な成長傾向を示している。

(1) 原木

今年上半期の原木輸入量は、建築及び内装の需要増加を背景に、前年同期に比べ、1.15%増加している。ただ6月分の原木輸入量が前月より2万2,000m³減少した原因は、マレーシアの天候不順により、原木の供給量が不足したためである。なお、6月のスギ原木輸入量は約9,200m³に達しており、依然として高水準で推移している。

(2) 製材品

製材品の輸入量は、海外からの受注の堅調な伸びを受け、前年同期比7.11%増加している。特記すべきことは、6月の製材品輸入量が一気に14万4,000m³を超え、近年の単月輸入量で過去最高を記録し、これまでの月間平均輸入量10万m³に比べ、40%以上の増加となった。なかでもカナダからの輸入量は2万2,000m³増と最多を占めている。

(3) 合板

今年上半期の合板輸入量は、内装及び家具の需要増加を受け、前年同期に比べ7.32%増加した。

仕入先別でみると、マレーシア産合板の供給不足、価格高騰が続く中で、中国からの輸入合板はさらに勢いを増した。今年上半期の輸入合板のうち、中国のシェアは約44.3%を占め、マレーシアのシェアは38.4%にまで後退し、インドネシアのシェアは14.5%となっている。業界の予測によれば、中国合板製品はマレーシアの市場シェアを奪う形でシェアを拡大し続けていくと見込まれる。

(4) ブロックボード

今年上半期のブロックボード輸入量は、前年同期に比べ0.3%減少している。輸入のブロックボード主に中国福建省に進出した台湾業者によって製造、輸入されている。関係筋によれば、現地政府の都市の土地利用政策に対応して、当該台湾業者は既に工場の生産を中止し、在庫を切り崩しながら台湾市場の需要をまかなっている状態で、現段階では工場の移転もしくはOEM生産への転換を模索しているようである。

(5) 単板

今年上半期の単板輸入量は、マレーシアからの原料供給不足を主な原因として、前年同期に比べ19.69%減少した。6月の単月の輸入量は僅か1万7,000m³で、ここ2年間の月間平均輸入量(2万~2万2,000m³)より20%以上少なくなっている。

る。このため、国内の合板、ブロックボード及び LVL 角材製造業者は苦戦を強いられている。

(6) ランバーコア

今年上半期のランバーコア輸入量は、内装の需要増加を受け、前年同期に比べ 3.39%増加した。しかし、6月の輸入量は僅か 2万 4,000m³ しかなく、今年最低水準に落ち込んだ。5月度の 2万 5,700m³ と併せて、2ヶ月連続で平均供給量 3万 m³ の水準を下回った。更にマレーシアからの単板輸入量が著しく低下し、7月はまたインドネシアの断食月にもあたるため、国内の製造業者は、原料不足に見舞われる恐れがある。

(7) 木質ボード

今年上半期のパーティクルボード輸入量は、国内外からの受注増を受け、前年同期に比べ、22.74%の伸びを示している。6月の輸入量は 4万 m³ 近くへのぼり、単月では近年の最高値を記録した。

同期の繊維板輸入量は、同様に国内外からの受注の増加を受け、前年同期に比べ 20.62%増加した。なかでも、6月の輸入量は約 1万 8,500m³ と、単月として近年まれに見る高水準となった。

パーティクルボード、繊維板輸入業者の話によると、今年の海外市場からの引き合いは、前年同期に比べ増加傾向で推移しており、内需の堅調維持に加えて、毎年6月、7月、8月は需要最盛期を迎えることから、輸入量は今までよりも好調な伸びが見られる。

表 1 台湾に 2014 年上半期における主要木材製品の輸入実績 (単位：m³)

	2014 年 6 月	2014 年 1-6 月合計	2013 年 1-6 月合計	前年同期比 (%)
原木	33,593	361,904	357,793	1.15
製材品	144,440	645,202	602,360	7.11
合板	63,947	359,536	335,002	7.32
ブロックボード	1,545	5,769	5,788	-0.3
単板	16,930	106,767	132,938	-19.69
ランバーコア	24,110	192,653	186,342	3.39
パーティクルボード	39,800	163,181	132,950	22.74
繊維板	18,526	92,983	77,087	20.62

(本文は現地レポートを基に編集したもの)